

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400314
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム昂星
所在地	愛媛県西予市城川町下相693番地
自己評価作成日	平成 27 年 12 月 18 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 2 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・洋風の3階建ての建物で各フロアからの眺めは雄大です。各フロアの利用者様は、他のフロアと交流しながら生活されています。 ・静かな緑あふれる環境の中それぞれが役割を持って生活しております。利用者を支える職員は、一人ひとりが目標を持ち介護力を高めるため研修に参加しております。 ・畑には、季節に応じた野菜を作っており、新鮮な野菜を使用して調理することが出来、おいしい食事を提供することができます。 ・開設以来、施設内で大きな感染症にかかった人もおらず、健康で暮らせています。 ・定期的な往診、看護師の訪問により、医療との連携ができています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台に位置している事業所は周りの緑を眺めながら落ち着いて過ごすことができる。職員全員が認知症を理解し、利用者が自分らしく明るく生活できるアットホームな雰囲気を大切にしている。また利用者一人ひとりの尊厳を重視してケアに取り組んでいる。母体である診療所が利用者の健康管理を行い、24時間の医療連携体制を整え看取りに積極的に取り組んでいる。職員同士のコミュニケーションは良好で、年齢差はあってもお互いを尊敬しあいながら利用者を支える者として真剣にケアに取り組み、質の向上につなげている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム昴星

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏 名 山本 修司

評価完了日 平成 27 年 12 月 18 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている	(自己評価) 共有理念はあり、それを踏まえて目に付きやすい所 に施設目標を掲げている。 (外部評価) 理念をもとに事業所の目標や職員個人の目標を毎年立 てて、一年間の振り返りを行い反省点を話し合い、次 年度につなげており、職員全員で理念に沿ったケアが できるよう努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 地方祭で地元の牛鬼などに施設に訪問して頂いたり、 地域のボランティアの方に慰問に来て頂いたり、地元 の中学生に福祉体験に来てもらったり、お祭りで紹介 の掲示物を貼らせて頂くなどして交流させてもらって いる。 (外部評価) 2ヶ月に1回ボランティアの訪問があったり、中学生 が福祉体験に訪れたり積極的ににかかわりをもつよう 努めており、中学生からのお礼の手紙が寄せられ掲示 している。また、ふるさと祭りでは事業所の掲示ス ペースをもらい紹介することができている。今後も工 夫をこらしどんどん事業所を知ってもらうため発信し ていく方針である。	事業所自体が地域の一員として交流できるよう、今後はAEDの研修など地域住民に参加を呼びかけ開催したり、地域行事には積極的に参加するなど目標にも掲げているように努力してほしい。交流が盛んに行われることで運営推進会議の参加が広がり、さらに職員との交流が深まるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方たちへお祭りなどでの掲示物で紹介する等努力中だが十分なアピールには至ってない。しかし、地域からの協力は得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議で話し合ったものを、業務カンファレンスやケアカンファレンスで報告するなどし、サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 学校職員に参加呼びかけを行い、メンバーを増やすよう努力している姿勢がうかがえる。運営推進会議では利用者のことや研修報告等意見交換もできている。今後は運営推進会議の内容がさらに実りあるものになり、サービスの質の向上につながるよう期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議などで意見交換をし協力関係を築けている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市担当者が参加し意見交換がされている。年に3回介護相談員の訪問があり利用者の話しや相談を聞いてもらっている。またヒヤリハットがあった場合には、速やかに報告をし事故防止にもつなげており協力関係が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全体で拘束をしない様なケアや環境づくりに気を付け定期的な勉強会をしている。	
			(外部評価) 年1回身体拘束の勉強会を実施し職員全員で意識づけを行っており、名前の呼び方等声かけにも十分な配慮に努めている。また、利用者にゆとりをもって接することができるよう、無理のない勤務体制に留意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 危険の早期発見、職員間・入居者間のストレスの軽減、家族などの面会時も気にする様にしており、虐待の怖さなどの勉強会をする等して日々のケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し報告してもらい勉強したり、該当ケースがある場合は再度職員間で話し合いが出来る様になっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に家族・身元引受人の方に説明をし、理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に家族様に話をするようにし、要望を聞くようにしている。また、契約書の中に外部の連絡先を明記している。 (外部評価) 面会時に家族から意見や要望を聞くよう努めている。春の家族会では、食事をしながらリラックスして話ができるよう配慮しているため、家族からは職員不足を心配している声も聞くことができ職員会議で報告している。また、毎月家族に事業所新聞を郵送しており、遠方の家族は写真で利用者の元気な様子を見ることができ喜ばれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ケアカンファレンス・業務カンファレンスで話し合い、管理者会議などで提案するようにしている。 (外部評価) 月末の業務カンファレンスで職員全員で話し合いを行っており、行事等についての意見や提案が活発に出されている。管理者と職員とは良好な関係が築けており、シフト面では働きやすいよう配慮されているが、職員不足が今後の課題である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有資手当を付け、資格取得といった向上心を持てるように取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加して報告書を書いてもらったり、研修内容を記録で他の職員が見れる様にしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) サービス担当者会議への参加、合同研修会等で交流する機会などがある。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の希望や不安などを聞いて本人を第一に考えるプラン作成するなどし関係作りをする様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族から希望・不安などを聞き、家族さんの不安が無くなる様なプラン作りをし関係を築いていく様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査等で得た情報・プラン作成前のアセスメントと職員間の話し合いなどでプラン作成をして本人・家族さんに説明をし納得をしてもらいサービスを開始している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事等を職員だけではなく、入居者さんと一緒にしたり、地域の行事等を教えて頂いたりして関係を築いている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんも関わって頂けるサービス内容を作成したり面会に来られた際に支援して欲しいことを聞いたり、普段の様子を話して共有した話が出る様に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族さんに外出や外泊した時に、近所の方と話をし、頂いて関係を途切れないように協力して頂いている。また、面会時に地域の話や昔の話をし、頂いていたりしている。地域のボランティアの方の慰問を受け入れて地域の方との交流が出来るような支援もしている。	
			(外部評価) 初詣の際は、外に出られない利用者は車中からお参りをしたり、昔ながらの地域行事どんど焼きには利用者もしめ飾りを持って参加した。また時には近所の方が面会に来てくれることもあり利用者の楽しみとなっている。家族の協力を得ながら外出することもあり、馴染みの関係継続の支援ができています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お手伝いしてもらう際に1名ではなく2～3名で手伝ってもらう様にしたり、皆さんでレクリエーションする様にしたり、入居者さん同士の会話の中に職員が入り橋渡しをする様にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 死亡時・長期入院時の利用終了が多いが、施設などを移動しても利用時（在居時）の情報を聞かれたら対応する様にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 帰宅願望が強い時は希望に十分に添えていないが、家族さんの協力を得たり、本人の希望に少しでも添えるように努めている。	
			(外部評価) 書初めでは利用者の思いや感情が俳句調に詠まれたり、またそれを書にして壁に掲示してある。ありのままの思いを職員は大切に感じとっていた。日々の生活の中で利用者の思いや意向を聞くよう努めており、把握したことは職員全員で共有しケアに反映できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査・本人からのアセスメントや面会時に情報を得るように努め、得た情報は職員間で共有し活かす様にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや声かけ等で職員が一人ひとりに関わって心身の情報把握に努めている。又、日誌などの申し送りで変化などを職員で周知出来るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のケアカンファレンスで話し合っ、家族からの要望を聞きながら、状況変化に都度対応している。	
			(外部評価) 職員全員で話し合いを行い、利用者や家族の意向を取り入れながら介護計画を作成している。尿パットを使用していた利用者が、トイレ誘導に計画を変更しトイレでの排泄が可能になった例など、利用者一人ひとりのアセスメントを大切に反映できる介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録・経過観察記録・業務記録に記録して残し、確認したら印を押すなどして共有したり、ケアカンファレンス等で話している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の状態変化に応じてアセスメントし、家族に相談したり、スタッフ間で話し合ったり等、その都度柔軟に対応するようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の婦人会の方に慰問に来て頂いたり、中学校の生徒さんに福祉体験に利用してもらったり、家族さんに外出・外泊した際に近所の方や馴染みの場所に行っていただいたりと協力して頂いてる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医に平日は往診に来て頂いているが、本人・家族 が希望する病院がある場合、家族の協力をお願いして いる。状態に応じて主治医の病院に受診している。	
			(外部評価) 経営法人である医療機関がかかりつけ医となっており、ほぼ毎日往診があり利用者の健康管理が行われて いる。また、必要に応じ訪問看護を利用することがで き、24時間の医療体制が整っている。専門医への受 診は基本家族同行であるが、困難な場合は職員が対応 しており、結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週に1回医療連携の看護師の往診が有り、相談・報告 している。また、職員に看護師が居るので相談したり している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) サマリ作りをして情報交換をしたり、家族さんから、 緊急時の希望を聞き主治医に伝えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に看取りについての説明、緊急時の希望などの 話をして、状態が悪くなると再度家族さんに緊急時の 希望を聞き主治医・看護師に相談し対応するようにし ている。	
			(外部評価) 重度化及び看取りに関する指針を定め、家族には契約 の際看取りについて説明を行い要望書を交わしてい る。また、利用者の状況に応じ、医師からは丁寧な説 明があり、その都度利用者や家族の意向を確認しなが ら看取りケアを行っており、経験の浅い職員には不安 がないよう先輩職員がアドバイスをしたり、勉強会を 重ねることで自信をもって利用者のケアに携われるよ う取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の方による普通救命講習を行ったり、AEDを設置し使用法を学び緊急時に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練や緊急時に近隣のお宅に助けを求められる様に連絡網を作りお願いする等して、災害時に備える様にしている。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと防災訓練を行っているが、地元住民の参加が少なく呼びかけが難しいことを実感している。緊急時対応のAED等の研修を行ったりしているが、今後は職員全員で周知し地域住民に貢献できるよう努めていきたいと考えている。裏山はがけ崩れの可能性が大きいので、現時点で対策を考えているところである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の情報を入居者前で話さない様にしたり、お手伝いをお願いする際や呼ぶ際は名前で行ったり、何かしてもらった時に感謝の言葉がけをする様にしている。 (外部評価) 個人情報等は大きな声での会話にならないよう注意している。また、食後には口元が汚れていないか確認するなど配慮しており、人格を尊重しながら日々、落ち着いて利用者の話を聞くよう心がけている。また、使用しているポータブルトイレにはわからないようバスタオルを掛けるなど、さり気ない配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で選択肢を作り、自己決定する場面を少しでも作る様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員主体になってしまう場合もあるが、一人ひとりのペースを大切にし希望を聞き行う様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整容を自分自身で鏡を見て出来る様に工夫したり、入浴時に一緒に服を選んだりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の物を取り入れた季節感のあるメニューにしたり、食事作りを一緒にする・味見をして頂いたりしている。 (外部評価) 献立委員を設置し、偏ったメニューや食材が無駄にならないように配慮しており、旬の物を取り入れるなど工夫している。また、地元の職員や利用者家族が作った漬物などが差し入れされている。利用者はごぼうの皮むきや片付けなどできることは積極的に行っている。利用者のペースで食事ができるよう適切な言葉での支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事量・水分量をチェックし表にして摂取量の把握をする様にしている。飲みにくい場合は水分の種類を変えるなどして飲んで頂いたりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の状態で、一部介助・全介助等で口腔ケアをする様にしている。義歯の方はポリデントを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 誘導が必要な方の排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導が出来をしてオムツ内失禁の回数を減らす様に気を付けている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し早めの声かけを心がけており、利用者の状態に合わせ尿取りパットやポータブルトイレの使用など安心できる支援につなげている。トイレは広くゆったりとし背もたれや立ち上がりバーなども完備されており、利用者が日中トイレでの排泄ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を多く摂ってもらったり、牛乳を飲んでももらったり繊維質の多い物を食べてもらう等している。又、個々に応じた運動や腹部マッサージ等をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人に入るか入らないかを決定してもらっているが個々に応じた曜日や時間帯の入浴は十分には実施出来てない。 (外部評価) 週2回の入浴を基本としているが利用者の希望に沿い支援を行っている。利用者の体調に合わせてたり、同性介助や二人対応にしたりと臨機応変な対応ができている。現在は入浴の苦手な利用者はいないため、順調に入浴することができており、入浴剤やゆず湯にしたりと気分転換を図りながら楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) お昼寝をされる方は本人の横になりたい場所（居室・炬燵・畳など）を聞いて休んで頂くようにしている。日中レクなどをして頂く事で夜間ゆっくり休んで頂くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用薬の一覧表を貼ったり、薬の説明書をとじて見れる様にしている。症状・処方薬の変化はノートに記入し職員全員が周知出来る様にしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味（作品作り等）をしたり、歌を唄ったり、話を楽しんだり家事の手伝いをして頂く時間を作る様にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の身体レベルに合わせた外出支援を考えたり、家族さんと外出できる様にも協力して頂いているがその日の希望での外出は十分に出来ていない。 (外部評価) 初詣、鯉のぼり、紅葉見学、イチゴ狩りなど行事予定を企画し、途中買い物に寄ったり、お弁当を食べたりと利用者に喜ばれる外出支援を行っている。外出する利用者が固定しないよう出かける順番を決め、全員が外出できるよう心がけている。事業所前の桜が満開になると、日常的に庭先に出て外気浴が行われ利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理の出来る方は買い物時に支払いをしてもらう様にしている。入居者様の中には少額のお金を家族様と相談し持っておられる方も居る。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人より希望時は電話の取り次ぎをして本人と話してもらう様にしたり、手紙が来た際は本人に渡し、返事をどうするか聞き対応する様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 展示物を貼ったり、花を生けたりして季節感を感じられる様にしたり、トイレ掃除を都度する等して不快な臭いがすることがないようにしたり日差しの向き・室温等を気を付ける様にしている。	
			(外部評価) 地元の職員や利用者家族の持ち寄りの花が玄関やフロアをはじめあちらこちらに飾られている。廊下には行事毎の利用者の笑顔あふれる写真や季節ごとの飾りつけがされており、長期にわたって同じものが飾られていないよう、利用者の様子が家族に少しでも伝わるようこまめに交換している。また、畳コーナーには大きいコタツが置かれており利用者がゆったりくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 畳に上がってコタツに入りテレビを見てもらったり、廊下に椅子を置いて休んでもらったりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の馴染みの物を持って来てもらい、本人の好きな配置で居室作りをする様にしている。	
			(外部評価) ベッド、ダンス、洗面台が備え付けとなっている。書初めや行事写真、職員と作ったドライフラワーなど一人ひとり違った飾りつけや表彰状等が印象的である。また、居室内は日頃から利用者が職員と一緒に清掃しており、きちんと整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下・トイレ・浴室に手すりが付いており立ち上がりやすくなる様にしていたり、ベランダで洗濯物が干せれる様にしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400317
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム昂星
所在地	愛媛県西予市城川町下相693番地
自己評価作成日	平成 28 年 1 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 2 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの思いや暮らしに寄り添えるように努めています。少ないながらも職員一同が協力しあって、少しでも利用者の笑顔を引き出せるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台に位置している事業所は周りの緑を眺めながら落ち着いて過ごすことができる。職員全員が認知症を理解し、利用者が自分らしく明るく生活できるアットホームな雰囲気を大切にしている。また利用者一人ひとりの尊厳を重視してケアに取り組んでいる。母体である診療所が利用者の健康管理を行い、24時間の医療連携体制を整え看取りに積極的に取り組んでいる。職員同士のコミュニケーションは良好で、年齢差はあってもお互いを尊敬しあいながら利用者を支える者として真剣にケアに取り組み、質の向上につなげている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム昂星

(ユニット名) 第2ユニット

記入者(管理者)

氏 名 城内 恵美子

評価完了日 平成 27 年 12月 30日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員が理念を共有し、実践につなげられるように 努力しています。 (外部評価) 理念をもとに事業所の目標や職員個人の目標を毎年立 てて、一年間の振り返りを行い反省点を話し合い、次 年度につなげており、職員全員で理念に沿ったケアが できるよう努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 日常的とはいかないが、中学生の職場体験の受け入 れ、地方祭・ふるさと祭りの展示物の参加など交流が あります。 (外部評価) 2ヶ月に1回ボランティアの訪問があったり、中学生 が福祉体験に訪れたり積極的ににかかわりをもつよう 努めており、中学生からのお礼の手紙が寄せられ掲示 している。また、ふるさと祭りでは事業所の掲示ス ペースをもらい紹介することができている。今後も工 夫をこらしどんどん事業所を知ってもらうため発信し ていく方針である。	事業所自体が地域の一員として交流できるよう、今後はAEDの研修など地域住民に参加を呼びかけ開催したり、地域行事には積極的に参加するなど目標にも掲げているように努力してほしい。交流が盛んに行われることで運営推進会議の参加が広がり、さらに職員との交流が深まるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生の職場体験で利用者との交流を行い職員の業務 内容も含め理解してもらえるよう努力しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では行事や取り組みの報告などを行い意 見交換を行っています。	
			(外部評価) 学校職員に参加呼びかけを行い、メンバーを増やすよ う努力している姿勢がうかがえる。運営推進会議では 利用者のことや研修報告等意見交換もできている。今 後は運営推進会議の内容がさらに実りあるものにな り、サービスの質の向上につながるよう期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者の訪問があり実情は伝えている。書類関 係はこちらから出向いて指導して頂いたりして協力関 係を築くようにしています	
			(外部評価) 運営推進会議に市担当者が参加し意見交換がされてい る。年に3回介護相談員の訪問があり利用者の話しや 相談を聞いてもらっている。またヒヤリハットがあっ た場合には、速やかに報告をし事故防止にもつなげて おり協力関係が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) すべての職員が身体拘束をしないケアを理解して正し いケアができるように取り組んでいます。	
			(外部評価) 年1回身体拘束の勉強会を実施し職員全員で意識づけ を行っており、名前の呼び方等声かけにも十分な配慮 に努めている。また、利用者にゆとりをもって接する ことができるよう、無理のない勤務体制に留意してい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会等で学ぶ機会があり、職員は虐待について学んでいる。施設で虐待が起きないよう職員間で防止に努め、言葉の虐待も出ないよう利用者には穏やかな言葉かけを心掛けるようにしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について勉強会等で学ぶ機会があったが活用まではしていません	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約や解約時、家族へはわかりやすく説明できるように努め、意見や不安などを出してもらうようにしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族の、意見や要望を聞いて職員間で共有し、ケアプランなどに取り入れています (外部評価) 面会時に家族から意見や要望を聞くよう努めている。春の家族会では、食事をしながらリラックスして話ができるよう配慮しているため、家族からは職員不足を心配している声も聞くことができ職員会議で報告している。また、毎月家族に事業所新聞を郵送しており、遠方の家族は写真で利用者の元気な様子を見ることができ喜ばれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファやケアカンファなどで出た職員の意見を管理者会議等で反映させるようにしています。 (外部評価) 月末の業務カンファレンスで職員全員で話し合いを行っており、行事等についての意見や提案が活発に出されている。管理者と職員とは良好な関係が築けており、シフト面では働きやすいよう配慮されているが、職員不足が今後の課題である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務状況が厳しいが、職場環境条件の整備に努め向上心を高めてやっていこうとしています	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員が研修など受ける機会を設け、身につけていくように努力しています	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 勉強会など同業者との交流の機会はないが今後はサービスの質を向上させる取り組みとして他の意見を聞き、取り入れていけるようにしていければと思います	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 最初に本人の要望や不安な事を聞きケアカンファレンスで話し合っ、不安の軽減に努めるようにしています	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の要望や心情を聞いて、少しでも安心したり信頼関係に努めれるよう努力しています	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族が必要としている支援を見極めれるよう努めています。眼科や歯医者等、本人・家族の希望に沿った対応を心掛けています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を通じて、できる事を一緒にしたりおしゃべりをして、皆さんと共感できるように日々努めています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人や家族の思いに寄り添いながら共に支えていける関係を築いていけるよう努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や知人馴染みの人が面会にこられた時はゆっくり過ごしてもらい、また来てもらえるように、つながりを大切にしたいと思っている	
			(外部評価) 初詣の際は、外に出られない利用者は車中からお参りをしたり、昔ながらの地域行事どんど焼きには利用者もしめ飾りを持って参加した。また時には近所の方が面会に来てくれることもあり利用者の楽しみとなっている。家族の協力を得ながら外出することもあり、馴染みの関係継続の支援ができています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者が孤立しないように職員がかかわり支えあうよう支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 相談があれば関係性は大切にしていきたいとします。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向・希望の把握に努め困難な場合は少しの時間をおいて再度声掛けをするようにしています	
			(外部評価) 書初めでは利用者の思いや感情が俳句調に詠まれたり、またそれを書にして壁に掲示してある。ありのままの思いを職員は大切に感じとっていた。日々の生活の中で利用者の思いや意向を聞くよう努めており、把握したことは職員全員で共有しケアに反映できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査である程度把握し、本人や家族との会話等によってこれまでの暮らしの把握に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人のもてる力を十分に発揮できるように支援して、他にもできる事を増やしていけるように努めています	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月に一度カンファレンス等で職員が情報交換し、きづきや意見を取り入れた介護計画を作成しています。	
			(外部評価) 職員全員で話し合いを行い、利用者や家族の意向を取り入れながら介護計画を作成している。尿パットを使用していた利用者が、トイレ誘導に計画を変更しトイレでの排泄が可能になった例など、利用者一人ひとりのアセスメントを大切に反映できる介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員間で情報を共有しながら、気づきや話し合いで介護計画の見直しに活かしています	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの方に訪問して頂いたり、中学生の職場体験で訪問していただき一緒に楽しんだりしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族の同意を得て、協力医療機関を主治医にしていま す。他の眼科・歯科など本人家族の希望を大切に し、納得のできる医療機関で診てもらえるよう支援して います。	
			(外部評価) 経営法人である医療機関がかかりつけ医となってお り、ほぼ毎日往診があり利用者の健康管理が行われて いる。また、必要に応じ訪問看護を利用することがで き、24時間の医療体制が整っている。専門医への受 診は基本家族同行であるが、困難な場合は職員が対応 しており、結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気づきや異常があった場合は職場内の看護職員や訪問 看護師に伝えて相談し、いち早く対処できるように支 援しています	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 早期退院ができるように病院関係者と情報交換や相談 に努めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りについては家族の希望を早い段階で聞いていま す。変化があれば再度話し合い、家族の希望に沿った ケアができるよう支援しています。	
			(外部評価) 重度化及び看取りに関する指針を定め、家族には契約 の際看取りについて説明を行い要望書を交わしてい る。また、利用者の状況に応じ、医師からは丁寧な説 明があり、その都度利用者や家族の意向を確認しなが ら看取りケアを行っており、経験の浅い職員には不安 がないよう先輩職員がアドバイスをしたり、勉強会を 重ねることで自信をもって利用者のケアに携われるよ う取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員が実践力を身に付けるため救命救急講習を受けていて、急変や事故発生時には対応できるように訓練しています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署のかたに協力してもらい避難訓練を行っています。災害発生時に備えて施設内で飲料水や乾パンなども準備しています。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと防災訓練を行っているが、地元住民の参加が少なく呼びかけが難しいことを実感している。緊急時対応のAED等の研修を行ったりしているが、今後は職員全員で周知し地域住民に貢献できるよう努めていきたいと考えている。裏山はがけ崩れの可能性が大きいので、現時点で対策を考えているところである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 同じ言葉を言っても、一人ひとりとの伝え方が違うのでその事を頭におき、誇りやプライドを傷つけることのないように気を付けています (外部評価) 個人情報等は大きな声での会話にならないよう注意している。また、食後には口元が汚れていないか確認するなど配慮しており、人格を尊重しながら日々、落ち着いて利用者の話を聞くよう心がけている。また、使用しているポータブルトイレにはわからないようバスタオルを掛けるなど、さり気ない配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いを傾聴し、利用者自身が意思決定できるように十分に時間をとって働きかけています	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にテレビをみたり、新聞を読んだり本を読んだり穏やかに過ごしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪など希望があれば家族の同意の元、専門の方に来てもらい切っていただいています。ヘアクリームや乳液を使用される利用者もおられます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事を楽しみにしてもらえるよう利用者の希望するメニューを取り入れたり、食べやすく刻んだり盛り付けたりと工夫しています。簡単な下準備やテーブル拭きなどできる事を手伝ってもらっています。 (外部評価) 献立委員を設置し、偏ったメニューや食材が無駄にならないように配慮しており、旬の物を取り入れるなど工夫している。また、地元の職員や利用者家族が作った漬物などが差し入れされている。利用者はごぼうの皮むきや片付けなどできることは積極的に行っている。利用者のペースで食事ができるよう適切な言葉での支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の食事摂取量と水分量をチェックしており、少ない利用者には声掛けをしてとっていただくようにしています。献立もなるべく同じメニューが続かないよう工夫しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後各自、声掛けや誘導をして口腔ケアをしていただくようにしています。自分でできない場合は介助しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 生活のリズムや個人の排せつのパターンを把握することで、自立にむけた支援を行っています。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し早めの声かけを心がけており、利用者の状態に合わせ尿取りパットやポータブルトイレの使用など安心できる支援につなげている。トイレは広くゆったりとし背もたれや立ち上がりバーなども完備されており、利用者が日中トイレでの排泄ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘がちの方には運動の声掛け、繊維質の食べ物や水分をとっていただくよう心掛けています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望に応じて入浴して頂くようにするが、時には希望に応じられない事があり、その時は次の日に入ってもらいようにしています。入浴中は会話などしながらゆっくり入っていただいています。	
			(外部評価) 週2回の入浴を基本としているが利用者の希望に沿った支援を行っている。利用者の体調に合わせてたり、同性介助や二人対応にしたりと臨機応変な対応ができている。現在は入浴の苦手な利用者はいないため、順調に入浴することができおり、入浴剤やゆず湯にしたりと気分転換を図りながら楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の安眠習慣を把握し声掛けして、日中の午睡は夜間の不眠の程度・足のむくみなどを考慮し休んで頂く様支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員が薬の目的や副作用など把握するよう努め、薬が変わった場合もその都度理解するようにしています。変化にも気をつけ主治医と連携をとれるように支援しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や趣味などをいかして自分らしく暮らせるように役割をみつけ楽しく思える暮らしができるように支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 長距離の歩行が難しくなり個別で日常的な外出という困難になっていますが、施設内で計画をたて外出したり買い物などできるよう支援しています。家族が来て外出される方もいます。 (外部評価) 初詣、鯉のぼり、紅葉見学、イチゴ狩りなど行事予定を企画し、途中買い物に寄ったり、お弁当を食べたりと利用者に喜ばれる外出支援を行っている。外出する利用者が固定しないよう出かける順番を決め、全員が外出できるよう心がけている。事業所前の桜が満開になると、日常的に庭先に出て外気浴が行われ利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の中には小遣いとして自分で管理しておられる方もあり外出時など所持しているお金で好きなものを買われ満足されています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書かれることはありませんが、便りを渡したり、家族からかかった電話の取次や家族にかけたりする支援はしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 壁画には季節毎の展示をしたり、共用の空間にも季節の花を飾るなどして穏やかで居心地よく過ごせるように努めています	
			(外部評価) 地元の職員や利用者家族の持ち寄りの花が玄関やフロアをはじめあちらこちらに飾られている。廊下には行事毎の利用者の笑顔あふれる写真や季節ごとの飾りつけがされており、長期にわたって同じものが飾られていないよう、利用者の様子が家族に少しでも伝わるようこまめに交換している。また、畳コーナーには大きいコタツが置かれており利用者がゆったりくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 炬燵に入ったり、畳に座って利用者同士が会話をしたりと思い思いに過ごせるようにしています。独りになりたい時は、居室に戻れます。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の希望されるものを置いたり飾ったりされ、居心地よく過ごせるようにしています。	
			(外部評価) ベッド、タンス、洗面台が備え付けとなっている。書初めや行事写真、職員と作ったドライフラワーなど一人ひとり違った飾りつけや表彰状等が印象的である。また、居室内は日頃から利用者が職員と一緒に清掃しており、きちんと整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりが少しでも自分でできる力を活かし生活する為に廊下や浴槽・トイレには手すりをつけ、トイレや自室には名前や場所がわかる目印を貼って安全で自立した生活が送れるようにしています。	